

米国とイスラム原理主義



160781111 三浦慧太

- 1. 対テロ戦争に負けたアメリカ

- a) 2006年フセイン処刑



- スンニ派とシーア派の対立

- テロの増加

- b) 2006年12月トルコのEU加盟の拒否



- トルコ人ムスリムの反欧米感情増大

- i) トルコにとってEU加盟は悲願

- c) イスラムの軍事的な勝利例

- ア) 1938年レバノンのベイルート自爆攻撃

- イ) 1990年湾岸戦争でサウジの米軍撤退

- ウ) 1993年米軍の希望の回復作戦に勝利

- d) イスラムの社会経済問題の関連

- ア) 権威主義で政治が腐敗

- e) アメリカのイデオロギーの強制

- ア) 中東民主化の推進

結果：パキスタン等での反米主義の台頭



神学校の増加やイスラム過激派の拡大

f) ブッシュ政権の中東民主化構想

ア) 米国内のユダヤ系保守の圧力

結果：反米イスラム勢力の拡大

例：2006年パレスチナでハマスが第一党化

g) イランの核濃縮

理由：対話での勝利は不可能

核開発はナショナリズム





イスラムの核としての国の高揚

- ア) アメリカが2006年8/31日までにウラン濃縮の自粛を要求
 - i) アメリカも8/30に臨界前核実験を強行

2. アメリカ・イスラムの歴史的関係

a) アメリカ外交は孤立主義

しかし市場や原料を獲得のため中東政治に干渉

b) モンロー主義

=モンローが作成

アメリカ大陸はヨーロッパを植民を不可

アメリカはヨーロッパ政治に干渉を不可

c) WW1で石炭から石油にエネルギーの革命の勃発

結果：イギリスと資源獲得の競合

サウジアラビアと石油協定の締結

・ d) ww2からのアメリカを中心とした世界編成

ア) 1947年トルーマンドクトリンの表明

→全体主義から自由主義を守護の宣言

ギリシアトルコに対して4億ドルの拠出の認可

イ) アメリカからトルコとイラクに対して進言

→1955年バグダード条約を締結

(二国の相互防衛条約)

しかし強引な手法と認知



親米感情の獲得に失敗

e) 1948年にイスラエルの建国

→ 中東にユダヤ国家ができた事にムスリムは激怒

- i) アメリカはイスラエルへの制裁に常に擁護
- ii) カーターはアラブとイスラエルの紛争解決を考案
- 例としてイスラエルの占領地からの米軍の撤退

f) 1981年レーガン大統領就任

ア) 彼は最も親イスラエルでクリスチャンシオニスト

→ イスラエルがユダヤ人に贈与した土地という信仰

したがってユダヤ人の入植は正統という見解



・ 結果：アメリカとイスラエルの関係がアラブから嫌悪



3. アメリカとイスラム原理主義の遭遇

a) アメリカとイランの関わりはww2を契機

→パフラヴィー朝の王政と関係強化

b) 1960年ケネディが大統領に就任

イランに民主化を要求

その後イスラム協会は宗教的改革行動を実行

1963年3月21日ホメイニ師が政府批判の演説を開始

↓

反王政運動が増加し、民主暴動が発生(六月暴動)

その後捕縛されるが政治への不干渉を理由に釈放

結果:ホメイニの思想はイラン人に受容

ア)イランの現体制の基盤

C)1979年シーア派の王政打倒革命

→ヒズボラの誕生（不信心、不敬虔の嫌悪）

d)アメリカがレバノンの内戦に関与

→レバノンでの米国に対するテロの増加

ア) 内容:誘拐、殺害、ハイジャック

結果:アメリカは過激派のテロへの危惧

4. 冷戦後の対テロ戦争の予兆

- a) アメリカは仮想敵を作る事により国内を結束
脅威はイスラム過激派と宣伝
イスラムの穏健な点を無視

- ア) 1993年にNYの世界貿易センター爆破

- i) アメリカはイランを嫌疑

- b) 1992年6月ジェレジアン

- メリディアンハウス宣言を発令

- イスラムは敵ではなく偉大な文明と強調

- しかし暴力、非寛容、テロとは対決する姿勢

c) 1995年4月クリントンが世界ユダヤ会議でイランに制裁

ア) 当初はイスラムを肯定

しかしアメリカのテロの標的化により態度の強硬化

d) 1995年オムニバス・反テロ法制定

ア) メディアもイスラムに否定的なイメージの宣伝

c) オサマビンラディンの台頭

→ ムスリムもアメリカを敵と認識

結果: 2001年の同時多発テロで争いは頂点に

5. アメリカとイスラムの永続的な戦争

a) ブッシュ大統領の就任

就任後アフガン戦争でアルカイダのメンバーを拘束

ア) その中には幹部の3/4も内包

その後残党のテロが2002年に勃発

また5月にはパキスタンや3か国でも自爆テロ

i) 1996年～2001年までにアルカイダは18000人増加

II) アルカイダにイスラム諸国の資金が流入

b) アメリカのテロ戦争の失敗

イラク戦争後アフガンやパキスタンで過激派を復活

ア) アメリカの永続する自由作戦により兵力が増加



アフガンでアルカイダの攻撃も同時に増加

結果:タリバンの台頭で社会基盤の未整備が起こる

c) イラク戦争の成否は同盟国のドイツフランスから提言

結果としてテロは一掃どころか増加

イラクでは社会を動揺させる原因に変形

自爆テロは中東中でかつてない規模で生起